

2022年6月1日

報道関係各位

ブルーイノベーション株式会社

## 「空飛ぶクルマ」向けバーティポートの早期実用化に向け 英 Urban Air Port 社と業務提携

～空飛ぶクルマの社会実装を見据え、空のインフラの共同開発および国内実証実験に合意～

ブルーイノベーション(本社:東京都文京区、代表取締役社長:熊田 貴之、以下 ブルーイノベーション)と英 Urban Air Port 社(以下 UAP 社)は、空飛ぶクルマの離発着場であるバーティポート<sup>※1</sup>の早期実用化に向け、ポートの共同開発ならびに国内での実証実験を行うことに合意する覚書を、4月27日(水)に締結しました。



×



UAP 社の空飛ぶクルマ向けバーティポート(左)と、ブルーイノベーションのポート情報管理システム(VIS)画面(右)

### ■本提携の背景と取り組み

道路の交通渋滞緩和や CO<sub>2</sub> 削減、災害対応などの社会課題を解決する手段のひとつとして、また、新たなビジネス機会を創出に向け、飛ぶクルマへの期待が高まっています。その社会実装のためには、空飛ぶクルマが安全に離発着するためのポートや、その管理システムが必要不可欠です。

ブルーイノベーションは、2016 年から国土交通省や東京大学と共同で、ポートの稼働状況やドローンの運行情報などをリアルタイムに集約・管理するポート情報管理システム (Vertiport Information System、以下 VIS)<sup>※2</sup> と、ドローンポート本体から成るドローンポートシステム「BEP ポート」<sup>※3</sup>の研究開発を進めており、全国で実証実験を重ねています。また、国際標準化機構 (ISO)において有人・無人航空機の離発着を管轄する空港インフラ(SC17)のワーキンググループの

議長を務めるなど、空のインフラや設備の国際標準化にも積極的に取り組んでいます<sup>※4</sup>。

一方 UAP 社は、世界でも数少ない空飛ぶクルマ向けパーティポートメーカーとして、世界中の空飛ぶクルマやドローンのメーカーを牽引しています。既に、米国や EU、アジア太平洋地域の主要な地域 65 ヶ所に独自開発の空飛ぶクルマ向けパーティポートを設置する計画を進めており、2022 年 4 月 25 日に、英国 Coventry 市に最初の空飛ぶクルマ向けパーティポート「Air One<sup>®</sup>」<sup>※5</sup> を設置し、実証実験を開始しました。

本提携では、空飛ぶクルマの社会実装を見据え、ブルーイノベーションの VIS と UAP 社の空飛ぶクルマ向けパーティポートを連結させることで「BEP ポート」のラインナップを強化し、日本国内での実証実験を通して早期実用化を図るとともに、グローバル展開を視野に入れた事業化検討を進めていきます。

\*\*\*

#### ■ブルーイノベーション 代表取締役社長 CEO 熊田貴之 コメント

空飛ぶクルマやドローンを社会実装するためには、ポート自体の稼働状況の監視や管理はもちろん、飛行・運航状況や離着陸時の安全を確認する VIS が必要不可欠です。私たちブルーイノベーションは、これまでも BEP ポートの VIS を国内外のポートメーカーに提供してきました。本提携もその一環であり、一日でも早い空飛ぶクルマの実用化に向け取り組んでいきます。

#### ■Urban Air Port .Ltd CFO Adrian Zanelli コメント

アーバンエアポートは、日本を非常に重要な市場と位置付けています。その日本で、ブルーイノベーションと私たちのプラットフォームを融合させ、共に開発を進めるために、私たちはクラス最高の技術とプラットフォームを提供します。今回の協業により、日本そして世界に向けた AAM (Advanced Air Mobility 次世代空モビリティ) エコシステムが構築できることを楽しみにしています。

\*\*\*

#### ■会社概要

**ブルーイノベーション株式会社**(東京都文京区)

1999 年 6 月設立。複数のドローン・ロボットを遠隔で制御し、統合管理するためのベースプラットフォーム「Blue Earth Platform<sup>®</sup>(BEP)」を軸に、以下ソリューションを開発・提供しています。

<http://www.blue-i.co.jp/>

- ・点検ソリューション(プラント・工場・公共インフラなどのスマート点検、3D モデル化など)
- ・物流ソリューション(倉庫内在庫管理、物流など)
- ・オフィスソリューション(警備・防犯、監視、清掃など)
- ・教育ソリューション(社内人材育成、子ども向けプログラミング教育など)

## About Urban-Air Port®

アーバンエアポートリミテッドは、エアタクシーや自律配送ドローンなど、新しい形態の持続可能な都市航空輸送の実現に向け、地上の施設から航空に至るデジタルインフラストラクチャの設計、開発、製造、販売、運用を行っています。高度なエアモビリティセクターの世界的リーダーとして認識されており、今後5年間で世界中に200以上のパーティポートの設置を計画しており、2022年4月からは、英コベントリーシティセンターで世界初のAir-Oneプロジェクトをスタートさせました。

[www.urbanairport.com](http://www.urbanairport.com)

【本リリースに関する問い合わせ先】

ブルーイノベーション株式会社 PR マーケティング部

TEL:03-6801-8781 E-mail:[press@blue-i.co.jp](mailto:press@blue-i.co.jp)

以上

## 【用語説明】

※1)パーティポート:垂直離着陸機(空飛ぶクルマなど)向け離着陸場。

### ※2)ポート情報管理システム (Vertiport Information System、VIS)

ポートの稼働状況や空飛ぶクルマ等の運航状況、自動離着陸時の安全確認などの各種情報を一元的かつリアルタイムに集約・管理し、他システムとも共有・連結することで、一連かつ複数の飛行オペレーションを安全に遂行させるシステムです。

### ※3)ドローンポートシステム「BEP ポート」、

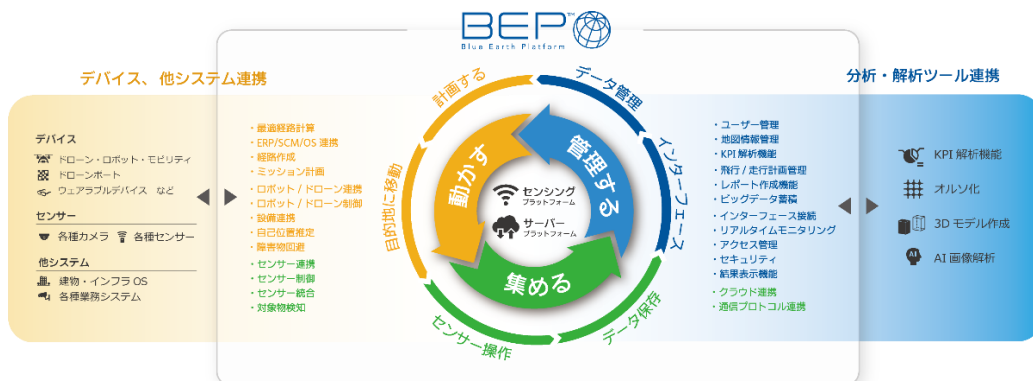
#### デバイス統合プラットフォーム「Blue Earth Platform®(BEP)」

ブルーイノベーション独自のデバイス統合プラットフォーム「Blue Earth Platform®」をベースに開発した VIS とドローンポート本体を組み合わせたシステムです。高精度離着陸機能、ポート周辺の複数ドローンの運行管理機能、ポートへの人等の侵入検知機能、ポート周辺の風向風速情報管理機能を備えており、ドローンの安全な離着陸を実現します。BEP ポートの VIS は、様々な種類のポートと接続・運用が可能です。



BEP ポートのポート情報管理システム(VIS)管理画面

BEP は、複数の自律移動ロボットを協調・連携させて複雑な業務を達成させるためのソフトウェアプラットフォームです。「ロボットを動かす」「情報を集める」「情報を管理する」にフォーカスしており、利用者は自律移動ロボットのスペックや制御方法等を意識することなく、ネットワーク上で繋がった複数のドローンやロボットが、ひとつの命令で複数の業務を自動で遂行します。



※4)ブルーイノベーションのポート国際標準化(ISO)への取り組み

ブルーイノベーションは国際標準化機構(ISO)において日本発となるパーティポートの ISO 規格化を提言し、2020年9月から、有人・無人航空機の離発着を管轄する空港インフラ(SC17)の ISO 規格化を進めるワーキンググループの議長を務めています。

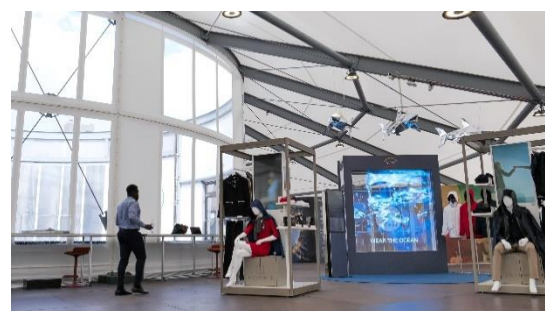
さらに、そのワーキンググループ内のプロジェクトである「Infrastructure and equipment for vertiports (垂直離着陸用飛行場のインフラと設備の標準化)」のプロジェクトリーダーも務めており、安心・安全なパーティポートの整備、実現に向け、グローバルに取り組んでいます。なお、パーティポートの ISO 規格発行は 2023 年を目指しています。

※5)UAP 社の空飛ぶクルマ向けパーティポート「Air One®」

Urban Air Port の AirOne®は、設置場所やニーズにあわせて機能を選択・組み合わせできる、モジュールタイプの eVTOL(垂直離着陸機空飛ぶクルマなどの電気垂直離着陸機等)向け離着陸場です。

- ・離着陸エリア
- ・運航管理センター
- ・充電/給油およびメンテナンスエリア
- ・貨物ロジスティクスエリア
- ・搭乗ラウンジ
- ・カフェおよびショッピングエリア

空飛ぶクルマによるタクシーやドローンによる物流、災害対応などの幅広い用途で活用を見据え、さまざまな eVTOL 機種に対応できるよう設計されています。通常の空港やヘリポートよりもはるかに低い設備投資と運用コスト、コンパクトで柔軟な空のインフラ構築を可能にしました。



以 上